

第 57 回 長野市公共交通活性化・再生協議会 議事概要

1. 日 時 令和 7 年 3 月 28 日（金） 午後 3 時から午後 4 時 30 分
2. 場 所 ふれあい福祉センター 5 階 ホール
3. 出席者 委員 22 人、欠席 8 人、事務局職員 7 人、高齢者活躍支援課職員 1 人
4. 次 第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 報告事項
 - (1) 地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価（二次評価）について
 - (2) 令和 6 年度協議会事業実施状況及び決算見込みについて
 - (3) 長野市自転車活用推進計画等について
 - 4 協議事項
 - (1) 令和 7 年度協議会事業計画及び予算（案）について
 - 5 廃止路線の対応について
 - 6 その他
 - 7 閉会

（議事概要）

報告事項

- (1) 地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価（二次評価）について
事務局から資料 1-1、1-2 を用いて説明
[意見等]
なし
- (2) 令和 6 年度協議会事業実施状況及び決算見込みについて
事務局から資料 2-1、2-2、2-3 を用いて説明
[意見等]
なし

(3) 長野市自転車活用推進計画等について

事務局から資料 3-1、3-2 を用いて説明

[意見等]

(A 委員)

善光寺口駐輪場の改修の工事内容はどのようなものか

(事務局)

自転車のラックはスライド式のものを全フロアに導入し、屋根の張り替え等も含め大規模な改修となる予定。

(A 委員)

収容台数は

(事務局)

現在の規格が今設置しているものよりも大きくなっており、台数は 50 台ほど減になる見込み。

(A 委員)

工事中、善光寺口駐輪場は使えないということによいか

(事務局)

全体で 900 台ほどを収容できる駐輪場となっており、また利用率も高いことから、1 階、2 階と分けて施工予定。完全に閉鎖はしない。臨時駐輪場も設置するので、不便なく利用いただけるように進めていく。

(B 委員)

第一次推進計画の目標値に対する達成度について確認したか。また、環境にやさしい手段である自転車の利用率についても集計したものがあれば教えてほしい

(事務局)

現行計画の目標値について、3-2 の巻末にアンケート結果として利用率や保有率の現状を記載している。集計結果としては利用・保有率が下がっており、原因については色々と考えられるが、物価高による車両価格の高騰・コロナ禍による生活スタイルの変化などが挙げられる。

協議事項

(1) 令和 7 年度協議会事業計画及び予算（案）について

事務局から資料 4-1、4-2 を用いて説明

[意見等]

(B 委員)

資料 4-1 について、「家族のバス利用を併せて促す」という今までにない目的を

掲げていると思うが、その動機はどういったものか

(事務局)

バスの無料チケットを配布する、といった企画のように、子供がバスに乗りたいたまは思ってもらふ動機づけが必要と考えている。他にもバスに乗っておでかけしたくなるような仕掛け作りはバス事業者と一緒に検討していかなければならないと思う。

(B 委員)

社会的な役割としての動機づけも乗り続ける上では大事になってくるので、そういったことも含めた施策が入れられるように工夫してもらいたい。

(A 委員)

市で実施しているみらいハッケンプロジェクトのポイントを使ってバスの乗り方を知ってもらうといった試みも可能かはわからないがよいのでは

(C 委員)

時期に合わせたプレゼントを配るといったことを各所でしており、バスの関係でも色々を作って差し上げたいというグループも多くいるので、事務負担が多くなる程度にぜひ活用していただければ。

(事務局)

教室の開催時に名刺タイプのアルクマシールをプレゼントしたが、大変好評であったため次年度も継続するつもりである。ただ、こういったプレゼント類をバス運転手が配布するといったことは大変負担になるかと思うのでバス会社とどういう方法が一番適切なのか協議していきたい。

5 廃止路線の対応について

事務局から資料5を用いて説明

[意見等]

(D 委員)

先日申し出のあった6路線の廃線について、県にも様々な声が届いている。県では昨年6月に長野県地域公共交通計画を策定しており、その中で「自家用車に頼らなくても大きな不便を感じずに安心して暮らせる社会を実現する」というところを目指して取り組んでいる。この計画については県内すべての市町村と共同で策定したものになり、通院・通学・観光における移動の確保について一丸になって取り組んでいくということで進めている。特に市町村をまたぐ広域的な路線についてはしっかり管理して取り組んでいくべきだと考えている。現在の利用状況や利用者数など客観的なデータをしっかり確認して沿線市町村と共に取り組んでいきたいと考えている。

(C 委員)

沿線にある高校(中条高)の9割の生徒がバスを利用しているとの報道もあったが、廃止路線の該当地区住民は非常に心配されている。

(事務局)

路線沿線に学校があるところについて、利用されている生徒が多くいる。廃線の申し出があった直後から市・県教育委員会とも情報共有を図り、時刻や運行本数などを検討し、通学に支障がない形で代替手段を用意していきたいと考えている。

(B 委員)

通学・通勤・病院といった利用がある中で、利用者の多くなりやすいタイミングに乗合タクシーで乗り残しがないように運行できるかといった心配がある。また、時刻について始業時刻や新札の時刻がある中担保できるのか、運営費用についての見通しが立てそうなのか。

(事務局)

利用実態の把握については今まさに進めているところ。また、利用者数が多い路線については適切な車両サイズによる市営バスの運行を考えている。費用面については心配しているところもあるが、県と協調して進めていきたいと思っている。

(E 委員)

戸隠・鬼無里のデマンド運行を受注しているが、減便により路線バスへの接続が無くなってしまい、通院に影響が出てしまう方がでてしまうため、30分早く運行する計画を市からもらっている。そういった取り組みをしながら、より多くの利用者へ便利に利用いただけるようやらせていただく。

(F 委員)

資料5の利用者数について、長野駅～牟礼まで通して利用した方が17万人ということでしょうか。

(事務局)

全区間での数字になる。